

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071600979
法人名	有限会社 吉兆
事業所名	グループホームふきのとう
所在地	福岡県久留米市荒木町白口2343-1 (電話) 0942-51-3660

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年7月26日	評価確定日	平成19年9月11日

【情報提供票より】 (平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 12人, 非常勤 7人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階建 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	48,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要 (平成19年6月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 0 名	女性 17 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	5 名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 80 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松枝医院、松岡病院、はるた医院等
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅街の中に位置し、玄関や居室の周りには花が植えられ、和やかな雰囲気を出している。夜間の対応においては、トランシーバーを活用し各ユニット間で定時連絡をする等の配慮をするとともに、緊急の際は、運営者も関わり、迅速な対応が可能である。また、運営者は、長年地域で民生委員児童委員やボランティア活動に参加し、「地域の中で普通に暮らし生きることのよこびを心に感じながら共に暮らせる時間と場所づくり」を理念とし、地域に根ざした事業所づくりに尽力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義や目的を、全職員で討議して理解している。前回の外部評価の改善課題については、マニュアルの整備や衛生管理のチェック表を作成する等、具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、前回の自己・外部評価資料を全職員に配布し、ミーティングで討議して取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を開催し、議事録もある。事業所の現状や前回の運営推進会議で取り上げた検討事項の経過を報告し、委員から意見、要望、質問等ももらっている。職員教育の実施や看取り体制の構築、食事アンケートをとる等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>運営推進会議に利用者家族も参加し、意見を反映させている。家族等の来訪時に職員が声かけし、積極的に意見、不満、苦情を聴取するように努めている。家族からの要望で、職員の名前が分かるようにネームプレートを付ける等、それらを運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、ホーム便りを地域の回覧板で回覧している。地域の祭りや子供会、敬老会等の行事に参加している。朝の外清掃時やごみ捨て時等、地元の人々へ積極的に挨拶や声かけに努めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で普通に暮らし生きることのよこびを心に感じながら共に暮らせる時間と場所づくり」とした事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やリビングに掲示している。毎朝礼時やミーティング時に理念に必ず触れて全職員で話し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ホーム便りを地域の回覧板で回覧している。地域の祭りや子供会、敬老会等の行事に参加している。朝の外清掃時やごみ捨て時等、地元の人々へ積極的に挨拶や声かけに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、前回の自己・外部評価資料を全職員に配布し、ミーティングで討議して取り組んでいる。前回の外部評価の改善課題については、マニュアルの整備や衛生管理のチェック表を作成する等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、議事録もある。事業所の現状や前回の運営推進会議で取り上げた検討事項の経過を報告し、委員から意見、要望、質問等をもらっている。職員教育の実施や看取り体制の構築、食事アンケートをとる等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当窓口に出向き、月1回以上は相談及び意見交換をして、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時に制度について家族へ説明している。管理者及び職員は、研修会で学習した資料を基に、勉強会で更に理解を深めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回、ホーム便りと合わせて、各担当職員より利用者の短期・長期目標を設定した介護計画の報告と手紙を送付している。来訪時に利用者の現在を状況報告し、金銭出納を明示している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者家族も参加している。家族等の来訪時に職員が声かけし、積極的に意見、不満、苦情を聴取するように努めている。家族からの要望で、職員の名前が分かるようにネームプレートをつける等、それらを運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が職員と馴染みの関係が保たれるよう、ユニット間での異動は極力少なくし、ローテーションの中で核になる職員が常時居るように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用に際しては、全職員の意見も考慮し、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員について、それぞれの特技や能力を発揮して生き生きとして勤務できるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>行政機関が発行した基本的人権のパンフレットなどを教材として人権啓発に努め、カンファレンス時に勉強会をしている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、内部及び外部研修について職員へ積極的に呼びかけ、研修を受ける機会を確保している。研修参加者は研修資料を配布してミーティングで報告し、共有化を図っている。また、介護に関する教材を用意し、貸し出ししながらトレーニングしていくことも勧めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国ネットワーク、県グループホーム協会に加入している。また、市内の他事業所と、会場を持ち周りでケアスタッフ交流会をしている。カレンダーの作り方や外出傾向のある利用者への対応等、サービスの質の向上につなげている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者家族との面談や事業所を事前見学を行い、他の利用者と1日一緒に過ごしてもらう等、徐々に馴染める環境作りに努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者に煮物づくりや、手打ちうどんの作り方などの手ほどきを受けながら一緒に食事をし、習わし事（正月、参社参り、菖蒲湯、柚子湯など）の際にも関わりながら自然と学び、支えあう関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、言葉、表情、顔色、動作等から、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には、家族から聴取した利用者の生活歴などを元に、検討を重ねるよう努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の思いの把握に努め、家族の意見を聴きながら、担当職員及び計画作成担当で原案を作成して全職員で協議し、具体的な介護計画を作成している。介護計画は、3ヶ月ごとに利用者の現状（長期、短期目標）を記入した便りを送付している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回のカンファレンス時に、担当職員が利用者の現状を報告して全職員で協議し、3ヶ月または6ヶ月及び状態の変化に応じて随時見直しをしている。また、家族へは便りを送付する際に、見直しについての意見を併せて聴いている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の入院時はお見舞いし、本人、家族、医療機関との連携を密にとり、早期退院を図っている。終末期に対応できるよう、職員として看護師を2名確保している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医での受診をできるだけ継続し、通院介助は家族と合意のもと、主に家族が行い、出来ない場合は事業所が支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて方針がある。本人、家族、医療機関と連絡を密にとりながら、全職員を含めて支援の共有化を図っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法については職員にパンフレットを配布し、月1回のミーティングで確認している。職員はプライバシーに配慮し、トイレ誘導は利用者の誇りを大切に、さりげなく自然な対応である。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの希望にそって、夜間の過ごし方やドライブ等、利用者の希望にそって支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事作りをしている。職員は利用者と同じテーブルで同じ物を食べ、食事を楽しみながら、さりげなく介助している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて、いつでも入浴できるよう支援している。現在入浴拒否する利用者はいないが、以前は、本人の好む温泉入浴剤を入れる等し、入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事の準備等の家事や菜園作り、カラオケや指導者を招いてのケアビクス、民謡、踊り等、多様なイベント等も計画し、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や状態を考慮しながら、おおよそ週2回のドライブや花見、買い物、散歩等、日常的に外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中の施錠はない。鍵をかけない工夫として職員の見守りや、日常生活から利用者の外出傾向を把握し、対応している。また、より安全の為に玄関にチャイムを設置している。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル及び避難訓練実施記録がある。非常用食料や備品を準備し、消火器と避難経路の点検を年1回行っている。防災訓練を実施する際は、地域へ参加を働きかけているが、地域住民の参加は難しい状況である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量及び水分摂取量の記録がある。献立は、本人及び家族の食事アンケートを参考し、カロリー、バランスも考慮して調理師が作成している。利用者の希望で臨機応変に献立を変更している。	○	今後、最低年1回は栄養士等による専門的なチェックを受けてほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品は家庭的で、リビング及び廊下にソファを設置し、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮している。カーテンで採光を調整し、職員の声の大きさや室内温度は適切である。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者の使い慣れた筆筒、テーブル、籐椅子、テレビ等を持ち込み、壁には自作のぬりえや本人や家族の写真を飾っている。また、利用者の希望で床は板の間か畳み敷きを選択できるようになっている。		

※  は、重点項目。